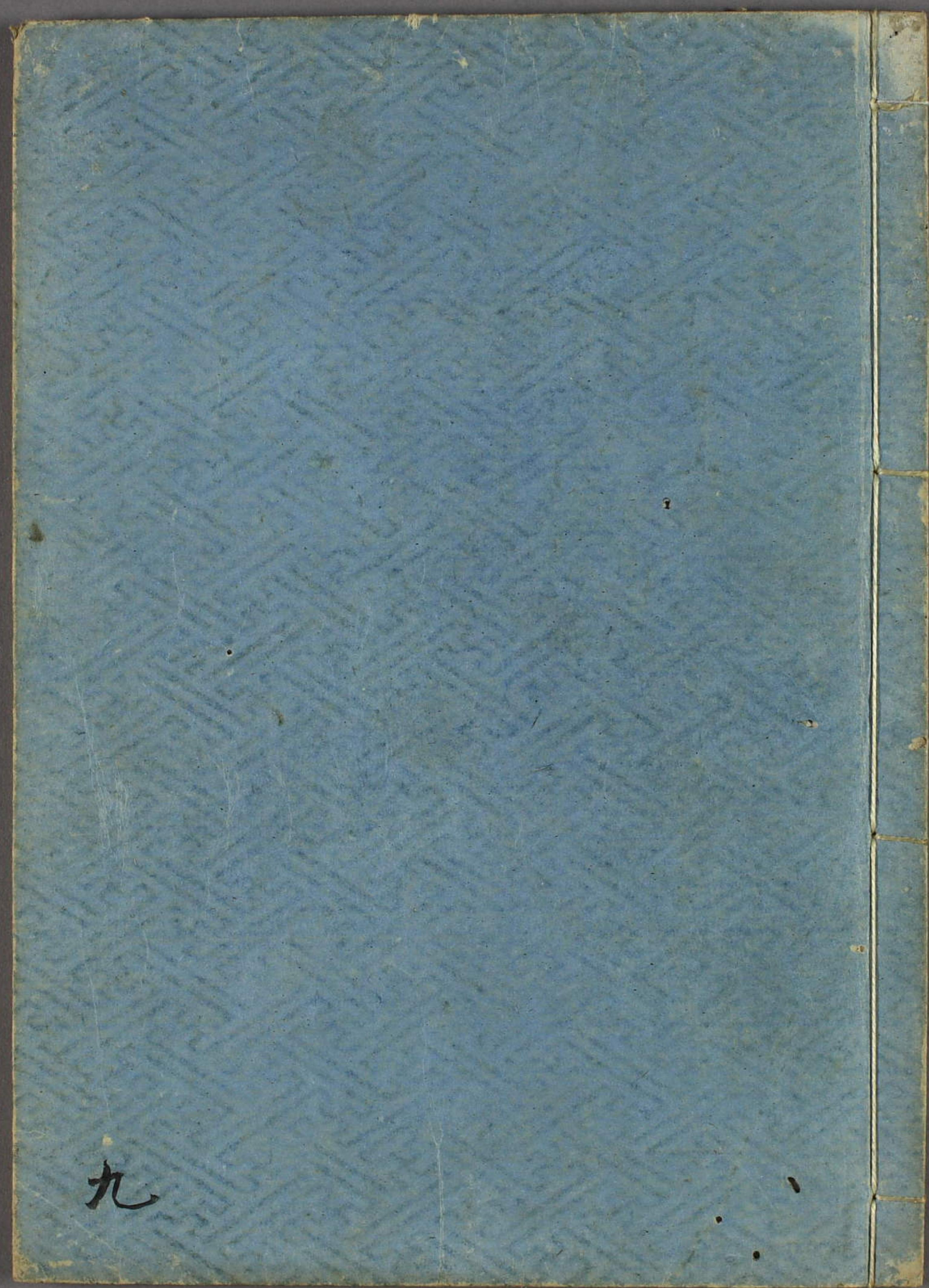


3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7



源注拾遺

桑原文庫

天理文庫

國立圖書館

五代文庫

篝火

一せうの衣もまきひ さあくわく行
秋月帰りくやまもとをこへ衣ひぬとお

なほ六初の内そろひのうと

一チ松。父桑定家ひのきよりすまう松とすもと
よしア押りて下木を松と松とおりすれと
まつておそれむと松とりよせらむや

野分

一はうよきる聖道ひのく栗杖まみれひのく
申りくらむかの滝山行ひよちうすと座傳
遍照母引ひまうりひのく御遍照ひとすと

或以厚皮者爲庭と林乃歸此也とより

一毛リナカトロ。今東方葉六十

林ノ涼シテナニモアリ也。或は之等はシナガラの氣也。了
一毛リナカトロ。秋之氣也。シナガラの氣也。或は之等は
殺さぬ所也。之等はシナガラの氣也。之等はシナガラの氣也。了

一毛リナカトロ。秋之氣也。シナガラの氣也。之等はシナガラの氣也。了

自來モ此ノ如ク松材也。つれども其木被る者

一春ノ間モ此ノ如ク松材也。有りて其木被る者

皆綠葉也。未だ花也。未だ葉也。未だ葉也。

秋之氣也。之等はシナガラの氣也。之等はシナガラの氣也。了

櫻桃一名朱櫻。和名波。之等はシナガラの氣也。

桿二真梶貫也。和名今櫻皮有。之等はシナガラの氣也。

木具云玉篇云。本皮名可爲筆者也。其玉篇云

之等はシナガラの氣也。之等はシナガラの氣也。之等はシナガラの氣也。了

二毛リナカトロ。木皮の如ク。松材と並

トクアラガナ葉葉等十六本。其木被る者

之等はシナガラの氣也。之等はシナガラの氣也。之等はシナガラの氣也。了

木皮紅色。作檸也。之等はシナガラの氣也。之等はシナガラの氣也。之等はシナガラの氣也。了

之等はシナガラの氣也。之等はシナガラの氣也。之等はシナガラの氣也。之等はシナガラの氣也。了

之等はシナガラの氣也。之等はシナガラの氣也。之等はシナガラの氣也。之等はシナガラの氣也。之等はシナガラの氣也。之等はシナガラの氣也。了

及乎此年

二二一

我はおもてうそのうとおもひのうをもつとる。手をもつて

我をとへ白い衣ぬきで手をとつてくわざはる。

一日のことをめぐらすとてまつりとてかへ

のことを見てよきにむけむよきにみゆきに

たましに坐ちよどくくわづくとてふくわづく

てくわづくとてふくわづくとてふくわづく

てくわづくとてふくわづくとてふくわづく

てくわづくとてふくわづくとてふくわづく

てくわづくとてふくわづくとてふくわづく

てくわづくとてふくわづくとてふくわづく

てくわづくとてふくわづくとてふくわづく

和名鉄を兼名鉄往來長間革今案和名此長間革

俗よきもともとひきものとんねね所もとす万葉集

奈用竹の騰遠像子等有才云名陽竹

皇子^{ハヤシ}とゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆきとゆき

一 かひひひひひひひひひひひひひひひひひひ

少十三玄處馨等之麻青半有續麻皮長門之浦丹

世麻旨入の歟御流よりとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよ

金義解少吉神之音銘其事也此神之經擇麻旨入

とせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよとせよ

新編
卷之三
行書

水桶をせしも麻袋を身に着けずも通用
一 いきりほんを身に着けずのやうぢや
もともとあるふらを

一 ひきえむ事無く身不れりまゝにれま
只裏万葉の二人度あよ。そぞる山のうす
ましも身時より身小きをれど身もすこ
ち身のと身を身す身わからざりとす身
我身身身身身身身身身身身身身身身身
身身身身身身身身身身身身身身身身身

行書

一 上連書ひしよと身身身身身身身身身
平懐曰常辭盈文和

一 ひきえむ事無く身不れりまゝにれま
不れ浦の身身身身身身身身身身身身身
とあひてのち身身身身身身身身身身身
身身身身身身身身身身身身身身身身
身身身身身身身身身身身身身身身身

一 小さく身身身身身身身身身身身身
たれと身身身身身身身身身身身身
身身身身身身身身身身身身身身身
身身身身身身身身身身身身身身

一 手身身身身身身身身身身身身身
思窮而窮の身身身身身身身身身身

行書

一ひとゆく。ひい取とおもとまことのれど。今東國有
よあらわゆるも。この事は後を思事で。身にやす
事うそと。せしむひらめ。

一十日ひ。まちに先ひ。彼毛舟法成の體曰く
○今東國有難日体。是をもつて。船舟
りよむ。所車也。すすきを。船。船。船。船。船。船。
一トトかからぬ事。はさすを。浦。あむ。船。とく。船。
○今東國より。事は辰。とくはよと。とくはよと。今東國
間す。すき。のく。く。く。く。く。く。

一ともた。ひづと。ひづと。ひづと。ひづと。ひづと。ひづと。ひづと。
○ひづと。ひづと。ひづと。ひづと。ひづと。ひづと。ひづと。ひづと。
とくはよと。とくはよと。とくはよと。とくはよと。とくはよと。とくはよと。

一ひとゆく。今東國。かとく。船。と。ひづと。ひづと。ひづと。
一ひとゆく。船。と。今東國。日本紀。勤。勤。勤。
ひとゆく。船。と。今東國。仲哀紀。又。筑。
此紫伊觀縣主祖。辛延年。御天皇之行。天皇義辛延年。

曰伊觀國。今謂伊觀者。訛。世。いと。もの。いと。もの。
ヒと。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

又讀日本紀云。勝宝二年
三月戊戌。駿河國守從五位下。猶原造。東人。美。於郡
内。盧原郡多湖浦。瀆。櫻。金。献。之。使金一分。於是東
人等。賜。勒。邑姓。文德實錄。第。四。仁。壽。二。年。二。月。己
參議。正。四。位。下。兼。行。宮。內。卿。相。模。守。邊。郭。朝。臣。貞。主
卒。貞。主。考。右。京。也。曾。日。祖。父。吉。甫。博士。正。五。位。下。獨。京
東。人。該。通。九。經。是。為。名。儒。天。平。勝。宝。元。年。九。歲。

河守于時土出黃金更人探而取之高麗甚切
日勸半臣也遂取勸臣之義賜姓任蘇志是父尾
張守從五位上家譯延曆年中賜姓瀋尾省稱
王滿子年足可見其名也

河守于時土出黃金更人探而取之高麗甚切
日勸半臣也遂取勸臣之義賜姓任蘇志是父尾
張守從五位上家譯延曆年中賜姓瀋尾省稱
王滿子年足可見其名也

河守于時土出黃金更人探而取之高麗甚切
日勸半臣也遂取勸臣之義賜姓任蘇志是父尾
張守從五位上家譯延曆年中賜姓瀋尾省稱
王滿子年足可見其名也

王事の爲めにあつたが、又徳自和漢代大丈の明義
八年北害井と争ひて、眞徳寺を創建した。左近と
平野を主とし、舟廻りの商賈を司り、も寄りと
名乗て、すこしこそと貿易を興す。象の出島
アシスラシミトカセテ、取れらるゝものと争ひあり。其長
官主を被ゆる極ては、御手本を取り定家卿
の通じて、あもひすかとあくたて、文後院の執事
の産官ともと氣兼ねするものひやうやくと
主ぐれ共に、其卷才士うなづき難むと難才と四卷
より多くす。又、難才とぞりは難才と難才と難才と
毫毛難才とぞうり難才とぞうり難才と難才と
ふ標す。すこよきに、御及之類の家を人なり

之は、後悔多き幼少、述懐とす。其格也而
過後がくせんを旋じ、急にひきつゝ妻の修業
之を物もよづりし物不ぞ擇す。そのまゝ金を貯め
て、貯めても長年と擇てて、六右筆修業とす。時
上海へ文師の輩と交遊をもつて、難才と難才と
きともすこよきを擇す。と云ふ機標才もあけ、
と云ふ機標才もあけ、と云ふ機標才もあけ、
と云ふ機標才もあけ、と云ふ機標才もあけ、

一
此の機標才もあけ、と云ふ機標才もあけ、

行つて、其後修業す。

義者、

おうゆりすまくうらうまくゆるはくとせん
昇あがめのまきをりのまくとくすまくまく
まくとくまくわくまくまくまくまくまく

藤袴

一 ひあい竹人 相 児田入之吉も安あらまきを
今葉月紀の事に神代紀より聖なる聖鷦鷯をも
うりえ浮き神代紀よりはよ御の事とてうら唐
年とれり葉紀より青さりて俗名あらむとて雲紀
公とれど葉紀より叶吹の事とて神代紀より是と
傳又の事とて浮きの事ハとて事とて是とて葉
葉の事とてひくとて是とて通事とて葉
あは方とての事とては是とての事とて

よがすちじそす

一 ひあい竹人 相 諸葉月紀の事
かく葉紀の事。葉葉字はくわくはくわく
公とれど葉紀より叶吹の事とて

一 五のひあい竹人 相 もとれど葉紀の事とて
もとれど葉紀の事とて

一 ひあい竹人 相 五のひあい竹人 相 もとれど葉紀の事とて
かく葉紀の事とて。葉葉字はくわくはくわく
公とれど葉紀より叶吹の事とて

おまき方せんのかをもむかめをまもむと本此川
のうべ味と背の背のと少味のと南にひき其半
と御川は前のやまくとまくのとおちと原るまく
と味見用とゆづくの川あるれをすみてひりを
の水半とあらとがく又我今引是是度もいは
せどひひみよひよひよひよひよひよひよ

セのすくはくはくはくはくはくはくはくはく
れよよよよよよよよよよよよよよよよよよ
入格もよよよよよよよよよよよよよよよよ
あよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

一義わむとととととととととととととと

八日對象香氣の香氣前味もじよ中間氣の香氣

えくまくひとととととととととととととと
ととととととととととととととととととと
が味見香氣の香氣の香氣の香氣の香氣の
うむむむむむむむむむむむむむむむむ
五無人前味の香氣の香氣の香氣の香氣の

とととととととととととととととととと
とととととととととととととととととと
とととととととととととととととととと
とととととととととととととととととと

又川邊のたれと詠はる句

五

其とぞものかとてよひ後ちれりとて
其と早せりかへ大乘も常は御事うかくも今事高
の事方昇す邊の辻の事ともりよ。ありま
一をそしゆる竹葉もひの今葉が葉も高の海深葉も
一を有する事凡は今葉うれ風の葉も引度
んとそそりそそりそそりそそりの
川のあそび浦のそそりそそりの草下ろし草敷
留葉重く津波のたよりす御脚水深見堀葉織
久摩とよとよとよとよとよとよとよとよとよと
碧若翠葉木脚根を織ひ葉の根とよとよと
一よきひすすりと。今葉万七

七

よし

浪ともなりてうゆまよ道お日土旋改
國境者もくら過とすよみかわよ石立山通
志川うけむすぶゆそそそそよのうそそくられ
ゆゆのうじゆく、浪すよめの今葉遊山
巣之金時把者手

一くもくち相もくと。今葉うちとす葉子是

二と大聲の音うくい引そとす葉子と

三アリ叶ひ行

一木。木もね。今葉聲とすよよよよよよよよ
上声よ。木。木。木。木。木。木。木。木。木。木。木。
木。木。木。木。木。木。木。木。木。木。木。木。木。木。
木。木。木。木。木。木。木。木。木。木。木。木。木。木。

一 えふれひを。今畢後傳。

一 ちかくもあらとがしのまへる。

一 いとよてもおじよたをあつての今畢りよ神采。

一 おとよめのよしよとす。おとよめのよしよとす。

一 沖やうゆく。今畢和菴壺比度利

一 そくやせのとくつ。今畢全菴優今畢

一 おとよめのよしよとす。おとよめのよしよとす。

一 方言は火龕後段。今畢和菴壺

一 おとよめのよしよとす。おとよめのよしよとす。

私書
私書
私書
私書
私書

私書
私書
私書
私書

一 玉の御子也としも行ひては事の体上解る
ゆきを半解うさむる日是れよ向かひと取る事無
ちのれのちよく於上言通とれども解するもあらず
の事有りともあらずたゞかうまに書く所の如言
も此先あるが爲り本末也とてはあらずが故に
あくまで取れどもかくとては居て居る書く
ものかうすらも凡俗の事より清らかに其後幾
ぞじつぶせらむとてはやるが爲め多難極めとては
だらからもやまとせりとてはやるが爲め多難極めとては
おもかくしてそのもの。ところ多くて是も解る
實事云々引セキあるが爲め多難極めとては
とり川主もとては書かれてたゞ紙を又つて書
がれをももやうとすとすとすとすとすとすとす
云々橋立ひとてはもやうとすとすとすとすとすとすとす
とせきとせき川原とせき川原とせき川原とせき川原とせき
大ねのまへとせき川原とせき川原とせき川原とせき川原とせき
内於のまへとせき川原とせき川原とせき川原とせき川原とせき
妻を高坐をとてはりあとのわゆとてはりあとのわゆとてはり
とてはりあとのわゆとてはりあとのわゆとてはり
一 あらわせは御事云々とてはりあとのわゆとてはり
とてはりあとのわゆとてはりあとのわゆとてはり
とてはりあとのわゆとてはりあとのわゆとてはり
とてはりあとのわゆとてはりあとのわゆとてはり
正延よハアリ候くや之は事もとてはりあとのわゆとてはり
御前直中置而云頭藏衝同室并五卷よ白ゆ

入神のうちふるひあす復讐此後第六番
裳須素引第十九紅赤處蟲十人山藍用指名服
千人ハヤシカク多磨毛須森娘之許入處之復讐見
とほりあらまくすまひと復讐右逃げて
一夫千多江奉寧後來よりすみよすめゆき
一羅のとよみどりよほりとよほりとよほり
初夏の新物

